



# ラボの紹介



## 東京藝術大学大学院



# 1. 調査研究の概要

(構成団体:東京藝術大学)



## テーマ

子供の夢中の起点となりうるアート活動についての調査研究

## 検証内容

学生(相棒)による伴走支援のもと、ドリーマー(何かに夢中になっている芸術家・研究者)が行う活動に参加し、新たな発見や興味関心に「着火」する体験を通じながら、「夢中」となった起点をフィールドノート等により検証する

### 対象

小学1年生～小学5年生

### 実施時期

R6年10月～12月(8回)

### 主な実施場所

大学(上野キャンパス)及び周辺公共施設

### 活動内容

ドリーマーが企画するアート体験活動(楽器演奏・芸術鑑賞・異文化体験等)を実施

### 活動内容

第1回	アート作品としての散歩
第2回	クラシックと身体表現
第3回	ミュージアム体験:東京都美術館「田中一村展」
第4回	音楽と異文化体験(ガムラン)
第5回	日本の版画研究
第6回	伝統芸能のしぐさ
第7回	アートの多様性を巡る:芸術未来研究場展
第8回	GAクラブキョーインシツ

## 活動概要

## 2. 調査研究活動の様子(1)



第1回:アート作品としての散歩



第2回:クラシックと身体表現



第3回:ミュージアム体験



第4回:音楽と異文化体験





## 2. 調査研究活動の様子(2)



第5回:日本の版画研究



型を掘ったスタンプによる作品の制作を行う「版画」体験

第6回:伝統芸能のしぐさ



足袋を着用して舞台上がり、舞や小鼓を演奏する「能楽」体験

第7回:アートの多様性を巡る



新聞記事の作成に向けて、東京藝術大学の展示会を取材

第8回:GAクラブキョーインシツ



教員室をクラブに見立て、音響機器の操作やダンス等を体験

### 3. 調査研究活動の関係者の声



#### 参加児童生徒の声

- 初めて体験するいろいろな活動ができて、驚きや楽しさがあった
- 親が知らないことを知って、それを親に教えられてうれしかった
- 美術館の絵を相棒と一緒に何時間でもずっと見ていたかった
- 人前で話したり、意見を言うことが苦手だったけど、電車を使って活動に毎週通うようになり、自分のことを表現することができるようになった

#### フリースクールスタッフの声

- 最初は「事業に協力する」という視点で参加したが、子供の新たな一面を知ったり、普段交流のない子供の間で新たな交流が生まれたり、交流が深まる場となった
- 活動を通じて子供たちが成長していく姿が見られ、また、活動への移動中に年長者が他メンバーのためにクイズや占い等を自発的に行い、場を盛り上げるようになったなど子供同士の関わり合いが増えた
- 美術作品の鑑賞などが子供には専門的過ぎるかと思ったが、絵を描くことへの興味が高まり、スクールでも取り組むようになった

#### ラボメンバーの声

- 藝大という場所やアーティストに触れることで、参加した子供の視野が広がるのではないかとこの思いで取り組んだ
- 活動の環境について、子供達が「自分達のやりたいことを、否定されない空間」と認識した時に、創意工夫が発揮され始めた印象を持った
- ラボが予め意図した着火点(興味・関心が湧くであろうと想定するポイント)とは異なる部分に反応する子供も多くいた